

八峰町長3期目にあたっての所信について



皆川 鉄也 議員

質問 3期目を無投票で当選された町長の所信を伺う。

答弁 八峰町誕生後2期8年、菌床椎茸栽培再構築、アワビ陸上養殖会社の誘致、ポンポコ山公園整備、住宅リフォーム支援、防災対策強化、ワゴンコイン検診、予防接種助成、外国語指導支援員配置、ICT教育など全般にわたり多くの課題を実践し成果を上げてきた。

これからの4年間は農林漁業、観光、商工業の振興による雇用確保を軸に、生活基盤整備、福祉

の充実、教育環境の整備を主要課題に取り組み、行財政基盤を確立していく。これらを推進するに当たり、町政を語る会、行政協力員会議、各種団体との懇談等を積極的に開催し、民意を反映した政策立案に努める。

来年は町誕生10年目の節目、11年目から合併特例措置が縮小される。第2次八峰町統合振興計画を前倒しして策定する。

再質問 農業の転作問題など時間の押し迫った課題もある。他の機関協力を仰ぐなど専門的な組織母体を作り、地場産業の農業をどう守り育てるのか早く検討する必要がある。

答弁 国の新しい政策が期間を区切って進められており、町も対応が必要なことは時間をおかずしっかりとやっていく。

子ども園の運営について

質問 八峰町全体の子ども園の運営の在り方と、小中学校統合問題について。

答弁 11月には八森地区統合子ども園が開園する。峰浜地区の子ども園の現況は、園児数が定員数を下回っているものの支障なく運営している。児童の減少に歯止めがかからない状況に置いては、児童の保育・教育環境の問題や財政面など園運営にも支障が生じることが予想され、峰浜地区の子ども園統合についても検討が必要ではないかと考える。しかし、子ども園が地域と密着していることから、少人数保育でも残したいという意見もある。八森地区の子ども園統合にも10数年を要した。峰浜地区の子ども園統合



建設中の統合子ども園（平成26年7月撮影）

手這坂に仮設トイレの設置を



柴田 正高 議員

質問 桃の花の時期だけでも観光客でにぎわう手這坂に仮設トイレを設置できないか。3月議会が必要があれば相談にのり、いろんな形で一緒にやっていきたいとの町長発言の意図はいかに。

答弁 今年も連休頃より桃の開花状況の問い合わせの電話が町に寄せられた。町では現地の確認を行い回答したり、町のホームページなどで開花状況をアップしたりして対応してきた。その中で、

手這坂にはトイレがないことと、2km先のホテルのトイレを紹介しており、トイレが無くて困ったという苦情は特に寄せられていない。

また、観光客からの問い合わせに対しては、事前にトイレを済ませてから来てもらうことや、どうしてもという場合はホテルの里のトイレ等を利用してもらうよう周知に努めており、現時点では仮設トイレを設置しない方針である。

3月議会の発言は特別なことを想定したものではありません。まだ関係者と話し合う機会がないものの、具体的な申し出があれば、町が出来る事であれば協力していきたい。

女性の管理職を増やせ

質問 男女雇用機会均等法の趣旨を活用し、有能な女子職員をその能力に相応しい地位を与える考えはないか。法律の趣旨をいかに活用し、女性の地位向上を図るのか。

答弁 管理職員への登用については、男女の差別なく、能力や経験、実績など総合的に判断しながら登用してきた。女性職員の絶対数が少なく、管理職員等に登用するた



手這坂・桃源郷

めには経験年数が少なく、どちらかというと若い職員が多いため、適任者が極端に少ないという状況で、女性の管理職員が少ない要因となっているもので、男女差別をしているものではない。法の趣旨に沿って均等な待遇を実施しており、改めて特別なことは考えていない。

再質問 国では女性登用を30%にする目標を掲げており、町でも評価が高ければ若くとも管理職に登用できないか。

答弁 今後も男女の差別なく、全体的に仕事の評価等をしながら登用していく。

についても慎重に検討していく。

再質問 統合しろというのではなく、建物だけでなく職員も充実しなければならぬし、認定子ども園に移行するのか保育園の将来性を伺う。

答弁 認定子ども園に向かっていると表明している。今の保育所、幼稚園機能を含めたものに内容を換え、向かっていきたい。統合により人員的に効率化されるが、0歳時保育対応等職員配置していきたい。